

Story

15年前に娘を亡くし、心に空虚感を抱えて暮らす美術館職員の八木由起子。ある日、館内で展示されている「立山曼荼羅」に描かれた女人救済の儀式「布橋灌頂会」の存在を知り、導かれるように富山県立山へと向かう。

現地で由起子は、白装束を纏い目隠しをして、この世とあの世の境とされる橋を渡る儀式に参加する。その帰り道、儀式で手を引いてくれた高校生の沙梨や、同じ参加者

の夏葉と出会い、食事を共にする中で、亡き娘への想いを打ち明ける。



About 布橋灌頂会 ぬのばしかんじょうえ

富山県立山町芦峯寺に伝わる「布橋灌頂会」。江戸時代に信仰の山「立山」への登拝が許されなかった女性達が、白装束姿で白い布が敷かれた橋を渡る極楽往生を願った儀式。立山信仰の里・芦峯寺ならではの現代の癒しの行事として、心の安らぎや支えを求める精神文化。



Written and Directed



監督・脚本
坂本欣弘
〈富山県出身〉

1986年富山県生まれ。デビュー作『真白の恋』(2017)で高崎映画祭新進監督グランプリや各地の観客賞を受賞。続く『もみの家』(2020)では四季折々の風景と共に少女の成長を描き、最新作『無明の橋』(2025)では立山を背景に「喪失と再生」を紡ぐ。一貫して故郷・富山の風土に根ざし、人の心の機微を丁寧に映し出しながら、観る人の心に静かに寄り添う作品を生み出し続けている。

オール富山ロケ

ロケ地マップ

無明の橋

むみょう

立山連峰を望む橋のもと、様々な想いを抱えた女性たち

——空疎な日々、に光を灯す、

ひとときの交流

渡辺真起子

陣野小和

吉岡陸雄 岩瀬亮 山口詩史 岩谷健司

木竜麻生 / 室井滋

監督 坂本欣弘

脚本:伊吹一 坂本欣弘 | 音楽:未知瑠 | 撮影:米倉伸

制作プロダクション:コトリ | 制作協力:イハフィルムズ Ippo | 配給:ラビットハウス

© 2025「無明の橋」制作委員会



映画『無明の橋』 ロケ地マップ。



family house よしろく中滝店



7 由起子たちが皆で夕食を食べる定食屋

和田バス停 ＜才覚寺線・大山コミュニティバス＞



8 由起子が布橋へ向かう際に乗り降りするバス停

常願寺川



9 由起子が川を歩いて渡るシーンを撮影

芦峯公民館



10 白装束の着付けが行われるシーンを撮影

グリーンビュー立山



11 由起子がタクシーを降りてホテルに向かうシーンを撮影

立山駅



12 由起子が電車を待つ駅

13 富山県立山博物館



布橋
「布橋灌頂会」の儀式で渡る橋
※女人衆としてたぐさんの立山町の方々や地元の高校生がエキストラ出演されました



閻魔堂
僧侶の念仏とともに儀式が始まるシーンを撮影



遙望館
スクリーンがあたり目の前に雄大な景色が現れるシーンを撮影



展示館
東京で由起子が勤務する美術館

県営住宅海老江団地



1 由起子が東京で暮らすアパート

和合苑



2 由起子が墓参りをするシーンを撮影

富山県水墨美術館



3 東京で由起子が勤務する美術館の事務所および更衣室、出入口として使用

ホテルよし原



4 夏葉が宿泊したホテルとして、ロビーや表で撮影

ホテルプライムイン富山



5 由起子が宿泊したホテルとして、室内シーンを撮影

山田祐司眼科医院



6 由起子が通う眼科として、診察シーンを撮影



坂口透
(岩谷健司)
眼科医



神谷聡子
(山口詩史)
定食屋の女将



大橋悟
(岩瀬亮)
美術館の上司



細田賢一
(吉岡睦雄)
タクシー運転手



鈴木美佐江
(室井滋)
由起子の叔母



吉田夏葉
(木竜麻生)
布橋灌頂会に参加する女性



鶴野沙梨
(陣野小和)
地元の高校生



八木由起子
(渡辺真起子)
美術館の監視員

登場人物

作曲家。クラシック音楽をルーツとしながらもジャンルの垣根を越えて音楽を探求し、様々な要素を独自の音楽へと変容させる。近作としては、NHKドラマ「あきない世傳 金と銀」シリーズ(2023、2025)、映画「遺書」公開。(2025、アニメ「ふしぎ駄菓子屋 銭天堂」シリーズ(2020)、アニメ「ギヴン」シリーズ(2019、2024)、アニメ「ダンス・ダンス・ダンス」(2022)、など。また坂本欣弘監督作品では「真白の恋(17)」も「みの家(2022)」において、音楽を担当している。

未知瑠

音楽
1992年生まれ、京都造形芸術大学映画学科卒。近年の撮影担当作品に、山西竜矢監督「彼女が来たら」、大江崇允監督「鯨の骨」、大美賀均監督「義父養父」、山中瑠子監督「ナミビアの砂漠」、雨木元空監督「BAUS 映画から船出した映画館」、滝野弘仁監督「くまをまつ」など。Bialystock worksをはじめとするライブ映像や演劇作品の収録など多岐に渡り活動している。

米倉伸

撮影
1992年生まれ、京都造形芸術大学映画学科卒。近年の撮影担当作品に、山西竜矢監督「彼女が来たら」、大江崇允監督「鯨の骨」、大美賀均監督「義父養父」、山中瑠子監督「ナミビアの砂漠」、雨木元空監督「BAUS 映画から船出した映画館」、滝野弘仁監督「くまをまつ」など。Bialystock worksをはじめとするライブ映像や演劇作品の収録など多岐に渡り活動している。

伊吹一

共同脚本
1994年、山梨県生まれ。青山学院大学大学院法務研究科修了。執筆作品は、NHK総合「どうせ死ぬなら、パリで死のう。」、映画「祝日」、映画「幻の螢」、TBS「埼玉のホスト」「フジテレビ「僕たちの校内放送」映画「矢野くんの普通の日本(共同脚本)」など。